

—熊川の開発者伝説・野嶋兵庫—

福生市の指定文化財「野島家所蔵文書」の中に『神光仮言夢物語』という古文書があります。この古文書は江戸時代の安永二年(1773)に福生村の沢応という人物が記したもので、慶応二年(1866)に書き写したもので、福生の村の成立についての記載がある貴重な資料です。

この古文書の中で熊川村は野嶋兵庫が開発したと書かれています。野嶋兵庫の名は戦国時代の資料でも確認されており、あきる野市の大悲願寺にある天正19年(1591)に寄進された弘法大師木造には、「材木施主福生村野島兵庫輔」と銘があります。

また熊川神社にある慶長二年(1597)銘の棟札には、筆頭に「野嶋兵庫助」と記されています。姓や名の漢字表記に違いはありますが、この3点の資料に登場する野嶋兵庫は同一人物と考えられます。戦国時代に実在した熊川にゆかりのある人物だったのでしょう。

現在熊川地区に野島姓が多いのも、野嶋兵庫に何か関わりがあるのかもしれません。問合せ郷土資料室

は、月曜から金曜の放課後等に小学校内の施設や校庭を利用し、安全な見守りの中で、子どもが安心して楽しくすごせる場です。

「ふっさっ子の広場」の中では、市民の皆さん協力を得て、さまざまな体験や遊びの機会を作つて、一緒に子どもたちを育んでいきたいと考えています。

「ふっさっ子の広場」の中では、定期的に、一回だけの参加も結構です。※今後の運営のため、既存の「まなびあいボランティア」に事前に登録してもらいたいです。

定期的でなく、一回だけの参加も結構です。

定期的でなく、一回だけの参加も結構です。</